

2018. 12. 1

コナラやクヌギの黄葉、ひつじ穂が広がる田んぼ、林縁の道を埋め尽くす落ち葉、目の前の美しい光景に引き込まれます。ひととき静かだった里山は、いつの間にか木々の間や茂みを移動する鳥たちでにぎわい始めました。小春日和に誘われて移りゆく自然の中を散策するのも楽しい季節です。



初冬の
堂谷津の里



ウスタビガ・蒨



ムラサキシキブ



リュウノウギク



オオカマキリ 雛籠



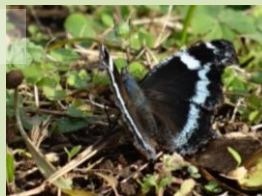
キタテハ



キタキチョウ



ウラギンシジミ



ルリタテハ



クロコノマチョウ

冬を成虫で過ごすチョウ



マンリョウ(実)



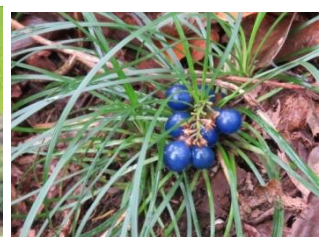
ヤブコウジ(実)



ヒヨドリジョウゴ(実)



ノササゲ(実)



ジャノヒゲ(実)



ヤブラン(実)

<季節メモ>

冬至



一年で一番夜が長くなる日、そしてこれを境に少しずつ日が伸びていく日。栄養補給のためにかぼちゃ(夏野菜だが切らないと冬までもつ)を食べたり、その香りが邪を祓うと信じられるユズのお風呂に入ったり・・・。行事(ならわし)と植物は見事にかかわりを持っていて調べてみると、結構おもしろい。

写真・編集：晝間